



Evaluate your options

どの選択肢が適切なのか

Management versus discipline

懲戒罰か、マネジメントか

Positive impact on control

コントロールにポジティブな影響を及ぼす

Acting in context and with credibility

信頼性のある対応(試合の雰囲気合った)

Timing of your intervention

タイミングの良い関わり

Human and humility

人柄と謙虚さ

Your reputation (individually and as a team)

個人としてチームとして適切に対応できればチームや選手から評価される

Jfa レフェリング アナリシス研修 受講報告

広島県 SI2 天川充弘

(スケジュール等)

- 第一回 9月24日～25日 JFAハウス
- 第二回 10月1日～2日 オンライン
- 第三回 10月22日～23日 JFA 夢フィールド, 西が丘サッカー場
- 第四回 11月12日～13日 オンライン

(参加者)

指導者：石山昇（JFA），伊藤力喜男（JFA），山崎裕彦（JFA）

受講者：森宏介（北海道），桜井洋輔（東北），佐藤ゆみ（関東），
阿部浩士（北信越），野田祐樹（東海），金野晋（関西），
天川充弘（中国），池添紀夫（四国），田測量也（九州）

(総括)

○全四回にわたる中身の非常に濃い研究会であった。レフェリングアナリシスという幅広く奥の深いテーマにもかかわらず，体系立てて丁寧に学べたことで，これまでおぼろげだった自分の理解の輪郭をはっきりさせ，深めることが出来たように思います。また，審判指導の根幹とも言える事象分析の重要性はもちろん，そのための知識や正しく事象を見つめる目をいかに養い，活用するかといったことを改めて理解することができました。

○また，JFA 指導者によって周到に準備された PPT や映像，メリハリのあるセッション運営や話の進め方に触れ，審判インストラクターに期待されているものとは何か，改めて想起することができました。

○研修概要を下記に簡単に記しましたが，地域のレベルアップに繋がられるよう伝達講習等の機会には詳しく説明させていただきたいと考えておりますので，今後ともよろしく願いいたします。

(研修概要)

■ 第一回

対象となる審判員の課題や改善点を、よりの確に抽出し改善のアイデアを提示するには、審判分析力が非常に重要であることを整理確認し、事象の分析（コンタクトプレー（タックル、キック））を行った。

分析に当たっては、受講者のうち毎回違う一人を進行役にし、考慮事項を踏まえた判断とその理由を意見集約していく形式で以後進められた。

初見のビデオクリップを見てすぐに分析するため判断が難しく、意見の割れるものも多かったが、活発に意見交換し、相違を深掘りすることを繰り返して体験して、プレーの見方、判断が一定の幅の中に収斂していくプロセスは非常に参考になった。

■ 第二回

第一回に引き続き、事象の分析（コンタクトプレー（キック））（身体的接触によって相手競技者を妨げる）を行った。

「身体的接触によって相手競技者を妨げる」のセッションでは、impede の意味を深掘りし、単なるチャレンジか、SPA の状況かなど、より多くの要素から判断することに取組んだ。

続いて、（競技の解釈と適用）として、Ex1 言葉または行動による異議を示すことで警告されるケースや Ex2 SPA と tactical foul（阻止と妨害）などを深掘りし、（アドバンテージの解釈と適用）の多くの考慮事項について考察を深めた。

アドバンテージを適用するときの考慮事項（整理）



■ 第三回

初日は、JFA 夢フィールドに集合して、ビデオクリップの事象の分析（オフサイド）（DOGSO）を繰り返し行った。

オフサイドの分析では、「そのときのプレーにかかわっている場合にのみ罰せられる」の「そのとき」とはどんなとき？、或いは意図的なプレーなのかディフレクションか、はたまたチャレンジなのかなど、多くの判断要素があることを改めて学んだ。

DOGSO の分析では、ボールをプレーしにいていたのか、相手競技者にチャレンジしようとしたのかなど、見方のポイントを踏まえつつ、あるべき判断を考察した。



二日目は、午前 JFA ハウスで前日の続きを行い、午後は味の素フィールド西が丘に移動して JFL のゲーム（東京武蔵野ユナイテッド FC 対ヴェルスパ大分）の審判団のアセスメントに取り組んだ。

アセスメントは、映像があるアセスメントレポートの手引きを踏まえたものとされた。

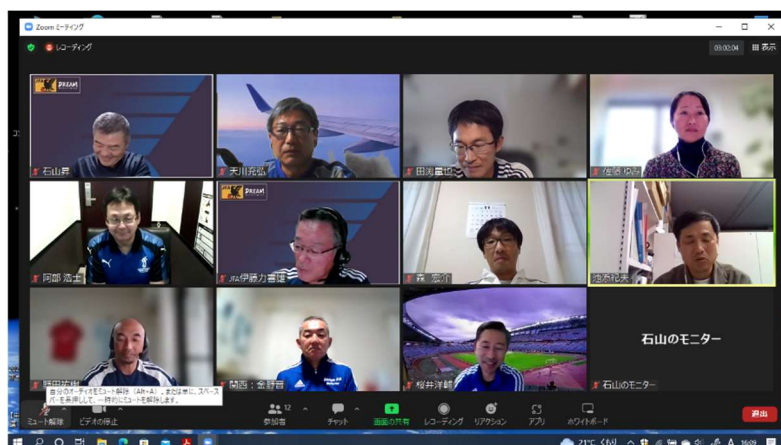
普段見ることのない、JFL のゲームでの審判団の真摯な取り組みをアセスメントし、内容的にはキーインシデントのない普通の普通となる点数であったが、レフェリーの一生懸命なマネジメントなどには新たな刺激を受けた。

■ 第四回

ZOOM によるリモート開催となった最終回は、前回アセスメントのすり合わせを行い、受講

者全員が一定範囲内に収まったが、各項目の判断とその理由について意見を交換し、見え方の違いによる点数の微妙な違いの原因を探った。

次に、3名ずつシャッフルしてグループを作り行ったワークでは、（FKのマネジメント）について考察を深めた。また、（ハンド）（主審と副審の協力）について整理分析した後、（試合への共感）のセッションでは、良いコントロール、一貫性、適度なコミュニケーションのバランスの重要性がベースになること、共感を得るとは言い許してはいけないラインを持つ必要があること、独りよがりな判定のメカニズムなど、興味深く重要なことを学んだ。



さいごに

- 映像を元に受講者同士が意見を積極的に交換できるよう、映像編集や場の設定、雰囲気づくりに心を砕いてくださったJFA指導者の石山さん、伊藤さん、山崎さんに加えて、ともに受講者として参集し、活発に意見を交換した8地域の仲間へ感謝します。
- また、レフェリングアナリシス研修という貴重な機会への参加を推薦してくださった、CGFA委員長をはじめCGFA関係者に感謝しつつ、終わりといたします。